

基本情報

時間割コード／Course Code	010383
開講区分(開講学期)／Semester	春～夏学期
曜日・時間／Day and Period	金 2
開講科目名／Course Name (Japanese)	比較文明学
教室／Room	
開講科目名(英)／Course Name	Comparative Study of Civilizations
定員／Capacity	0
ナンバリング／Course Numbering Code	01HUSC3A108,01HUSC3D205
必修・選択／Required/Optional	
単位数／Credits	2.0
年次／Student Year	3,4年
分野／Field	
担当教員／Instructor	野尻 英一

詳細情報

講義題目／Course Name	現代社会の「生」のかたちについて考える文明論的倫理学（われわれはどこから来てどこへ行くのか）Ⅱ
開講言語／Language of the Course	日本語
授業形態／Type of Class	講義科目
	比較文明学というと複数の文明を比較するかのような印象を与えるタイトルであるが、そうではない。文明学、文明論の系譜にはさまざまな流れがあるが、今日、一括して言うことが出来るのは、「文明」とは西欧において生じた「近代」のことにほかならず、それとの対照においてはじめて他の「文明」が浮かび上がるということである。つまり「文明論」という問題意識そのものが、近代性の所産なのである。このように考えたうえで二〇世紀における文明論を概観するとき、二つの大きな軸は、ドイツのフランクフルト学派（アドルノ、ホルクハイマー、フロム、マルクーゼ等）による哲学的・精神分析的文明論と、フランスのアナール学派（ブローデル、アリエス、ゴフ、ウォーラステイン等）による地理的・経済システムの文明論であると言える。そのいずれもが「近代」のコア・システムである資本主義経済の分析と理解に根ざしている。「文明」への視角を得るためには、近代性＝資本主義の本質の理解が必要となる。この講義では特に、近代化された社会に生きる人間の生と主観性の問題から近代性の本質に切り込むことを主眼とする。 近代化された社会において人間が生きてはどういうことであるかを理解するためには「弁証法」を理解する必要がある。弁証法（dialectic）とは、古代ギリシアに起源をもつ用語であるが、一般には十九世紀の哲学者ヘーゲルが得意とした思考法であるとされている。しかし二〇世紀現代

授業の目的と概要／Course Objective	思想の展開を経て判明したことは、弁証法とは単なる思考法なのではなく、近代社会の構造と近代人の思考の構造そのものであるということである。したがって弁証法とは近代性そのものであるし、近代的な自我の構造そのものであるし、資本主義の構造そのものである。そしてその超克は、かつての現代思想ブームにおいて言われたように簡単なものではない。この一〇〇年間、近代の超克ということは盛んに言われ、ポストモダン（ポスト近代）ということも盛んに言われたが、近代は後期近代というバリエーションへ推移しただけで、継続している。この講義では、テキストを精読することを通して、弁証法＝近代性とは何かについて理解し、それを通して自己自身を理解し、そして弁証法が解除された（終了した）状態とはどういうことかを考えることができる思考力と想像力を養う訓練をおこなう。 本講義では、古代から現代までの西欧の哲学・倫理学の重要古典（eg. ソクラテス、プラトン、アウグスティヌス、デカルト、カント、ヘーゲル、マルクス、ラカン、フーコー、デリダ）を横断し、さらには東洋の思想も取り上げながら、あくまで現代の人間について考えていく。大事なことは、いわゆる教科書的な倫理学史を頭に入れることではなく、一つ一つの哲学者の思想がどのように現代の自分とかわかっているかを理解することである。テキスト講読と並行して文学、芸術、映画、表象文化（マンガ、アニメ等）からも事例を引用しながら、文明論的な倫理学のフィールドを構成する。
学習目標／Learning Goals	哲学、思想の方法と、現代に生きる自分自身の生き方について考えることとのつながりを見いだすこと。
履修条件・受講条件／Requirement / Prerequisite	
授業計画／Class Plan	講義は、基礎論二回の後、教科書から主に四篇の論文を選んで講読する予定である。 教科書収録の他の論文にも適宜論及する。 なお当該年度のカレンダーや進行の都合により予定を変更する場合がある。 第一回 イントロダクション（基礎論①） 第二回 人間とは何か～弁証法から考える～（基礎論②） 第三回 自閉症スペクトラムの存在分節① 第四回 自閉症スペクトラムの存在分節② 第五回 自閉症の哲学的考察による「人間」観の再考① 第六回 自閉症の哲学的考察による「人間」観の再考② 第七回 虚空と風——南方熊楠の「場所」をめぐる——① 第八回 虚空と風——南方熊楠の「場所」をめぐる——② 第九回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——① 第十回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——② 第十一回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——③ 第十二回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——④ 第十三回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章——⑤ 第十四回 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲル

	の構想力についての断章——⑥ 第十五回 まとめ 教科書（『哲学の戦場』）目次 野尻英一 未来の記憶——哲学の起源とヘーゲルの構想力についての断章—— 加藤直克 ヘルダーリン『ヒュペリオン』を読むということ 中尾健二 モーツァルトのオペラにみる近代 高橋明彦 アリアドネは歎く——詩人としてのニーチェ？—— 三浦仁士 自閉症スペクトラムの存在分節 唐沢太輔 虚空と風——南方熊楠の「場所」をめぐって—— 相川 翼 自閉症の哲学的考察による「人間」観の再考 那須政玄 「自然」の取戻し——カント『判断力批判』の読み方——
授業外における学習／Independent Study Outside of Class	教科書の指定箇所を事前に読んでおくこと。予習箇所は授業中に指示する。 また授業で紹介された書籍や映像作品などを進行に合わせて鑑賞しておく、授業内容の習得度が上がるので、望ましい。
教科書・教材／Textbooks	那須政玄・野尻英一共編『哲学の戦場』 行人社、二〇一八年（三八〇〇円） ＊受講者は購入すること。
参考文献／Reference	榎山欽四郎『哲学概説』創文社、榎山欽四郎『哲学の課題』講談社学術文庫 野尻英一『意識と生命』社会評論社 高瀬堅吉・野尻英一・松本卓也編『自閉症学のすすめ——オーティズム・スタディーズの挑戦』ミネルヴァ書房 ＊参考文献は発展的学習のために指示している。購入は必須ではない。用法は授業中に解説する。
成績評価／Grading Policy	期末レポート100%。学期末に提出する期末レポートにより評価する。
コメント／Other Remarks	
特記事項／Special Note	
受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students	この講義は同教員による「文明動態学（学部）／文明動態学特講（大学院）」の続篇にあたる。哲学、社会理論、精神分析の組み合わせにより近代性の本質を解明する講義である。文明動態学を履修したのち、さらに哲学的に高度な内容を学びたい学部3年生以上にお勧めである。 また社会・歴史の構造という〈客観〉の次元から入り現代文明の構造を理解するアプローチについては「社会理論（学部）／社会理論特講（大学院）」で行っている。本講義を補完する内容となっているので、興味のある学生はあわせて履修すると良い。 難易度は、おおむね、文明動態学（学部2年生向き）→比較文明学（学部3年生向き）→社会理論（学部4年生、大学院生向き）の順となっている。内容も発展的に連動しているので理解の面からもこの順での履修が望ましい。ただし学ぶ意欲があれば、どこから取ってもよい。

学生への注意書き

--

